



## 特集 スペインでのボランティア体験から

私を支えてくれたスポーツに“恩返し”したい。これが、ボランティアへ興味を持った、ひとつのきっかけでした。ただ、在職中は、なかなか自分の時間が持てず、ボランティア活動が非常に盛んな地域にいなから、何もしていない自分に引け目を感じるとともに、恥ずかしさも覚えていました。また、ボランティアを通して、とてもいい人間関係を構築しているみなさんをうらやましく思っており、なんとなく、ボランティアのみなさんが、いつも気になる存在でした。

そもそも、自分の勉強のために留学したスペインでしたが、留学当初、男子バスケットボールの世界選手権が、日本で初めて行われることが決まっており、自国にバスケットボールを普及させるために何かできないかと考え、ホームステイ先であるサラマンカという地方都市で、女子クラブのボール拾いやストレッチの手伝いを始めたのが、ボランティアへの第一歩でした。バスケットボールで使う単語をすべて書き出し、それをスペイン語にする。私の先生は、高校年代の女子選手達でした。「ブエナ デフェンサ!!!」ナイスディフェンスの意味ですが、普段は攻撃的な選手が褒められがちですが、私自身のバスケットボールの理論が「いい攻撃はいい守備から始まる」とのことから、自然と選手への声掛けも守備に関するものが多く、いつもは目立たない守備的な選手でも、遙かかなたから来た見知らぬアジア人が掛ける賞賛の言葉に、笑顔を見せることもしばしばでした。

2006年春、男女バスケットボールの日本代表がスペイン遠征へ。元男子監督のジェリコさんがスペインでプレーしていた経緯もあり、この遠征が実現したのですが、そこで、通訳をさせて頂いたのが縁となって、その年に行われた男子世界選手権では、スペイン代表のチームアタッシュ(大会主催者とチームを結ぶ通訳兼マネージャー)として一時帰国。世界一を経験できました。また、非常にホスピタリティー精神に富んだ日本のボランティアさんとの出会いもあり、そこでも、縁の下力持ちであるボランティアの方々の活躍ぶりに感謝・感謝でした。



2006年男子バスケ世界選手権～赤いシャツがスペイン代表付きのボランティア

2007年ヨーロッパ選手権のメディアルームにて

それから、1年。世界一になったスペイン代表にとっては、さらに、バスケットボール熱を国内に広めるチャンスがやってきました。ヨーロッパ選手権ですがかねてから、完全帰国のタイミングを伺っていた私は、その大会で、バスケットボールに、そして、私の第二の故郷と言っても過言ではない、この国スペインに何か恩返しをしてから日本に戻るうと決めました。それが、ヨーロッパ選手権でのボランティア活動でした。ヨーロッパのバスケットボール界では、世界選手権やオリンピックを制するよりも、ヨーロッパで勝つことの方が難しく、価値があるとされています。まさに、スペイン代表にとっては、地元で、初のヨーロッパチャンピオンを勝ち得て、国中を熱狂の渦に巻きこむ絶好の機会でした。しかし、あまりにも劇的すぎる悲しい幕切れで“涙”の銀メダル。前年の世界選手権に出場すらしていなかったロシアに逆転負けを喫し、幕を降ろしました。最後は、スペインのエース・アメリカNBAでも活躍するパウ選手のシュートがリングに嫌われ、セ・アカボ!(終了)。誤解を恐れずに言うなら、前年に、世界一の雰囲気を経験した私には、大きく2つの敗因があると思いました。1つ目。ラテンのお国柄からか、危機管理能力に欠け、日本では、あんなにバスケットボールに集中して臨んでいた環境から一転、チームに、いや、国に気の緩みがあったこと。地元開催ということから、言葉が通じること、大会が始まる前から、初の栄冠へなどとメディアもあおり、選手の家族はホテルに入り浸り、選手も外出自由で、戦う雰囲気が欠けていたこと。なんとなく、大会が始まり、調子が上がらないまま、なんとなく大会が終わったように思います。もちろん、ロシアの気迫に圧倒されていただけでなく、残念ながら、戦い方も研究されていました。そして、それは、大会運営にも見て取れました。それが、私が考える敗因の二つ目です。ボランティアのホスピタリティー精神の希薄さです。普段、私は、人と言い争いをすることが好きではありませんが、実は、大会中、幾度となく、ボランティア仲間と激しくぶつかりました。あまりにも、無責任に行動するボランティアに腹立たしさを乗り越えて、悲しくて人目もはばからず、涙してしまったこともありました。スペインでは、ボランティアという行為は誰かのためにとか、自主的に支えるというものではなく、とくに、スポーツボランティアは、タダで試合を見られる絶好のチャンスなのです。大会前のボランティア研修会でも、書類選考を経た、ごくごく限られたボランティアが参加していたにもかかわらず、軒並み出された質問が、「試合は見られますか?」「選手との交流の場はありますか?」など、耳を疑いたくなるようなものばかり。日本ではあり得ない、もしかしたら、聞きたくても聞けないのか、日本には、暗黙の高く保たれた“ボランティアモラル”があるからかもしれません。私は、大会前から「スペイン代表には、集中してバスケットボールに臨んで欲しい、試合に向き合って欲しい」と思っていました。なぜなら、サッカーの国・スペインで、

他のスポーツの魅力、今回の場合はバスケットボールですが、より多くの国民に伝えることができると思ったからです。しかし、それを支えるべきボランティアの多くが、試合を見るために、持ち場を離れ、試合に熱狂する。同じバスケットを愛する者として、心情は分かるものの、その傍若無人な行動には、理解に苦しみました。そこで、私は、自分の担当の時間が過ぎても、スペイン代表戦がある時は、その場に残り、ボランティアがいなくなるマスメディアルームで、その対応に当たりました。なぜなら、スペイン戦に関係のない他国のメディアが仕事をしているだけでなく、各々が自分の仕事を全うすることで、スペイン代表の勝利はもちろん、大会の成功をも手にすることができると思ったからです。ボランティア仲間が私に聞きます。「あなたは、世界選手権で、スペイン代表のチームアタッシュをしたんでしょ？試合を見たくないの？応援しないの？」と、もちろん、スペイン代表の勝利は、人一倍望んでいました。しかし、その時の私の答えは、「NO！」でした。「なぜなら、私は、ボランティアとして、スペイン代表が試合に集中できるように、ひいては、大会の成功のために来たから」と。みなが言い返して来ました。「言いたいことは分かるけど、所詮、ボランティアなんだから、自分も楽しまなきゃ、損よ」。文字通り、ボランティアとは、自由意志で成り立つ奉仕の行為ですが、国も変わればなんとかで、その意味合いも価値も変わってきます。スペインのスポーツボランティアの多くは、平日でも時間の融通がきく大学生が中心で、若さいっぱい、パワーがあります。そして、無償ではありますが、ボランティアをする“旨味”が満載です。食事が支給されるだけでなく、試合観戦も原則可能、おそろいのTシャツ等、ボランティアグッズも非常に豊富なのです。陸続きのヨーロッパでは、国を越えてボランティアをしている人が多いです。人の交わりが多いことから、語学ボランティアをしている人も多くいます。私のボランティア仲間の中には、アテネ五輪に仕事を休んで行った人もおり、すでに、北京に向け、ボランティアの申し込みをどうしようかと話している人達もいました。もちろん、中には、純粋な奉仕の精神を持ち、責任を全うすべく、目の下にクマを作って走り回っているボランティアもいました。30人ほどの私の部署では、私が見た限り、そうした志を持つ仲間は、わずか2名でしたが(苦笑)。



働き者のマイテ。なんと、彼女、サッカーFCバルセロナでプレーする  
スペイン代表・イニエスタ選手のいとこ



レアル・マドリッドに在籍するスペイン代表の2選手と

スペインで学んだこと。「人はそれぞれ違うこと」です。ボランティア活動を通して、一部のスペイン人の無責任さを目の当たりにしましたが、私には欠けている“今を楽しむ”ということを教えてもらった気がします。なぜなら、彼らの顔は、いつも笑顔で満ちあふれていたからです。みなさんの周りには、眉間にしわを寄せている人が多くありませんか？「人は、もともと違う」ことを理解していれば、例え、意見が違って、そういう考え方もあるのだなど、少しばかり、広く世の中を見ることができ、例え、いらついても、その人の人格までも否定することはなくなるのではないのでしょうか？バルセロナで、10年以上会社経営をしている日本人女性社長の口ぐせです。「スペイン人は、友達に持つにはいいけど、ビジネスの相手にはしたくない。だって、約束を守らないから。」国民性の違いから、一緒に、何かをする難しさを言っているのかもしれない。

ヨーロッパ選手権中のマスコミ控え室での出来事です。部屋には、メディアが作業をするための白い机がたくさん並べられていましたが、いつも数ヶ所、コーヒー染みで、机がベタベタ、カップの跡と思われる丸い円ができていました。「私だったら、こんな汚い机で、朝一番に来て、仕事なんてしたくない！」と思ったので、ラウンジから濡れ雑巾を借りて、机拭きを始めました。そこで、また、ボランティア仲間がひとこと。「それは、YUKOの仕事じゃないでしょ？あんまり働くと、掃除の人の仕事が無くなって、首にされちゃうから、その人達の仕事を取っちゃダメだよ。」目が点の私。しかし、スペインでも、失業問題は大きな国の課題です。私は、会場の掃除のおばさんを探すことにしました。そして、「毎朝8時半には、メディアが入ってくるから、その前に、まず、机を拭きに来てください。」と頼みました。「あら～、汚いわね。これじゃ、置いた紙も濡れちゃうわ。」などと、翌朝までは調子良く、掃除に来たものの、それ以降は一切、姿なし。日本の国の“きれいさ”は世界でも胸を張れること。そして、人への思いやり・察しも、日本人の大きな特徴・長所だと思います。私は、日本という国を離れ、生活してみても初めて、日本という国のすばらしさ、そして、日本人としてのアイデンティティーを持ちました。一方で、改めて、「人は違うもの」という視点に立つと、「人の立場に立って考える」ということの難しさも感じました。なぜなら、所詮、人は違うのですから、どんなに、その人の立場に立とうと思っても立てないからです。しかし、ひとつのことを多くの人で行う場合、せめて、同じ方向を向き、そして、人への尊敬・配慮を持つ、そういう“姿勢”だけは共有したいものです。

今でも、スペインに戻りたいと思うことがよくあります。あまり気を使わず、楽だからです。一方で、この先、スペイン人と何かで競う時があったら、絶対、負けたくないと思います。なぜなら、日本人の、スペイン人より優れている点を知ったからです。そういった日本人としての自我や愛国心が、この国をさらに世界の舞台で活躍させ、日本という国の強みを世界に知らしめることができるのではないかと考えます。

スペインでのボランティア活動から学んだこと。それは、「私は、やっぱり、“日本人”だ」という“誇り”なのかもしれません。

(注)決して、すべてのスペイン人が怠惰という訳ではありませんので、ご理解を。

岩瀬 裕子 (元ミヤギテレビ・アナウンサー)

## 楽しむことからサポートしたい ～ Alliance 2002 (新潟)

Alliance 2002 (アライアンス:連繫)の誕生の経緯は2002年のサッカー日韓ワールドカップの前にさかのぼります。当初アジア初として予定されていた日本開催がFIFA内部の事情を反映して韓国との共催と決まった1996年6月を受けて、国内では10ヶ所の会場を選定することになりました。スタジアムの規模や利便性・そして地域バランスなどを背景として大分・埼玉・横浜・札幌・静岡・大阪が内定し、残る4ヶ所を東北では青森と宮城が、関東では千葉と茨城が、関西では京都と神戸が争い、それぞれ「宮城・茨城・神戸」に決まるのです。そこで最期まで争ったのが愛知と新潟で結果新潟決定は最大の波乱といわれました。当時新潟では社会人チームとしてのアルビレオ新潟が活動を開始したばかりであり、既に名古屋グランパスがあり人口密度や企業のサポートの面でも愛知有利とみられていたからです。一方、圧倒的不利の状況から日本海側で唯一のワールドカップの開催地となった新潟はこれを契機として、スポーツでの地域振興に積極的に取り組むことになったのです。

まず、アルビレックス新潟(1997年アルビレオ新潟から改称)は1998年にJFLに昇格し、翌1999年からはJ2に参戦します。当時、ワールドカップ開催地にはその会場をホームとするクラブがあることは当然という雰囲気があり、多くの自治体にも2002年まではチームを財政面も含めてサポートする、という姿勢が感じられました。それは、2002年を過ぎれば支援しない、というメッセージとも受けとられホームチームを支援する人々の中に危機感を生んでもいました。

Alliance 2002 (以下、アライアンス)が誕生したのは、1998年3月であり、まさにワールドカップの開催が決まり2002年に向けて全国各地でさまざまな動きが始まるという時期でした。現在の代表である金子さんに誕生の経緯を聞くと「2002年にワールドカップが新潟で開催され、アルビレックス新潟の誕生をうけてサッカーの楽しさ、ワールドカップの魅力を多くの市民に知ってほしかった」といいます。また、ワールドカップ後のアライアンスの役割をホームページ上では「サッカーという世界の共通語であるスポーツを、ワールドカップの行われたこの新潟に残していくことを目指して活動する」とし、そのために「観る(応援する)」「蹴る」「語る」そして当事者として「参加する」ためのコンテンツを提供するとしています。具体的には、過去においてはワールドカップと連動したイベント(CPサッカー大会やシンポジウムなど)の開催・サポート、継続的なものとして誰もが参加できるミニサッカークラブ(もくはちクラブ)の運営や新潟関連のサッカー情報の発信を行っており、アルビレックス新潟のゲーム運営(ボランティア)活動にも積極的に参加してきました。市民中心の組織を長く運営していくことは人的・財政的な面からも大変なことです。しかしアライアンスでは中核事業として位置づけられる「もくはちクラブ」(毎週2回開催)には平均40人以上が参加し交流を深めており、既にアルビレックス新潟や新潟レディースの選手が育つなどの実績もあげています。また、ホームページで発信しているサッカー情報も2001年8月から一日も休まずに提供、その地道な取り組みは驚嘆に値します。

2002年のワールドカップの翌年、サッカーのアルビレックス新潟はJ2で優勝しJ1昇格を決め、席数42,300人のピックスワンを埋め尽くすその応援風景は全国のクラブの羨望の的となります。また、サッカーだけでなく、2004年のウィンタースポーツの「チームアルビレックス新潟」の設立をはじめ、2005年にはプロバスケットボールbjリーグの「新潟アルビレックスBB」、陸上の「新潟アルビレックスランニングクラブ」、2006年には野球の独立リーグであるBCリーグに参加する「新潟アルビレックスベースボールクラブ」が次々に誕生し、高いレベルのスポーツを観戦し、応援に参加する環境が整うとともに、全ての競技においてこどもの段階からの育成の取り組みが始まっているのです。反面、選択肢の広がりは限られた地域においてスポーツ愛好者やボランティアを奪い合うリスクも生じており、現実にサッカーのボランティアは減少傾向にあります。チームがJ1に昇格して5シーズン目を迎え、ワールドカップ以前のような危機感はなくなりつつあります。そこにあることが当然、という意識はある種の無関心にもつながりかねません。「ホームチームをサポートすることの意味や価値を多くの人に知ってもらいたい」金子さんの声には先を見越した危機感があります。

アライアンスの活動の中心はあくまでサッカーであり、その核としてアルビレックス新潟のサポートは重要なものとなっています。このためホームページの中で本年の活動計画に「地域リーグ戦(40歳以上の壮年プレーヤーで構成されるチームによるリーグ戦)の開催」「もくはちクラブの運営」「新潟サッカー情報の提供」があることは堅実な取組みといえます。しかし、それだけでは危機感を解消するだけの広がりを作ることは困難です。このためスポーツボランティアに興味を感じてもらうための「シンポジウムの企画」や、「各種大会(全国各地のワールドカップボランティアのフットサル大会や全国豊かな海づくり大会)の運営支援」を行い、更に新潟で活動するスポーツイベントの運営主体や行政関係者、商工会などと連携して「スポーツでもっと幸せなまちになるための懇談会」を立ち上げるとともに、2009年には全国の「リーグクラブのある地域でホームタウン活動に関わっている人々が集まる「全国ホームタウンサミット」の新潟開催に向けての体制作りがスタートしています。実に多様で息の長い活動ですがその目標が達成できたとき多様目・多世代が関わる総合型のひとつの姿が見えてくるように思います。

「楽しみましょう、何か目標を持ちましょう。そして、ちょっと疲れたら休んで、リフレッシュしてから再開しましょう」、金子さんの全国のスポーツボランティアへのメッセージはそのままアライアンスのモットーであるのかもしれない。

スポーツ施設を身近に ～ グランディ・21ボランティア(宮城)

スポーツのボランティア活動のひとつの形として特定のスポーツ施設を拠点とするものがあります。そしてそのさきがけは2002年に全国10の都市で開催されたサッカーワールドカップのスタジアムに誕生したボランティア組織であったと思われます。

< 図/ワールドカップ2002年日本会場 >

スタジアム名	完成時期	ボランティア発足時期	ボランティア名称
札幌ドーム	2001年6月		日本ハムファイターズボランティア
宮城スタジアム	2000年3月	2003年3月	グランディ・21ボランティア
鹿島スタジアム	2001年5月		鹿島アントラーズスポーツボランティア
埼玉スタジアム	2001年10月		浦和レッズスチュワード
横浜国際総合競技場	1998年3月	1999年	横浜国際競技場ボランティア
新潟スタジアム	2001年4月		アルビレックス新潟ボランティア
静岡スタジアム	2001年3月	2001年9月	エコパサポーターズ
長居スタジアム	1996年		セレッソ大阪ボランティア
神戸ウイングスタジアム	2001年10月	2003年3月	ウイングスタジアムボランティア
大分スタジアム	2001年3月		大分トリニータボランティア

(注) 印「施設型ボランティア」 印はスタジアムを拠点とするチームのボランティア

鹿島と長居は改修の上ワールドカップ会場として使用 (完成時期は改修時期です)

図の通り現在全てのスタジアムでボランティアは活動しています。しかし、その内6つはそのスタジアムをホームとしてゲームを行うクラブが組織しているものであり、基本的にはチームの主催ゲーム以外のボランティア活動はしていません。一方「宮城・横浜・静岡・神戸」では、その施設管理者自身がボランティアの運営主体であることから、スタジアムで開催される多様なイベントで活躍しており施設型ボランティアといえます。

そして、そのひとつが「グランディ・21ボランティア」なのです。宮城スタジアムを中心とする宮城県総合運動公園(通称グランディ・21)のスポーツイベントを既に2003年3月から5年にわたり支えています。誕生はワールドカップ直後、宮城国体(2001年)やワールドカップのボランティアを中心に、運営すること自体で大きなコストが必要な「施設」と「県民」との距離を縮め、自分たちの財産として育てていくことを目的としています。「立派な施設なのに人がいない、という状況ではなく、私たち県民自らがボランティアとして参加しサポートすることで、得られた感動と喜びをみんなに、特に子供たちに伝えたい」と発足以来キャプテンとして代表を務めてきた村松さんは言います。

具体的なボランティア活動はおおきく3つに分かれます。第1はスポーツのイベントのサポートで、規模の大きいものでは2006年のサッカー日本代表戦のサポートや地元のベガルタ仙台のゲームなどを、案内やエコ活動を中心として支えたほか、毎週のように開催される陸上関連の大会では、大型映像装置の操作なども担当してきました。さまざまな経験をいかして案内誘導のための大型看板を作成し設置したり、観客のスムーズな移動のためのアドバイスを行うなどその役割は、一般的なスポーツボランティアの領域を越えています。第2はイベントの無い日を中心にスタジアムの見学案内を実施したり、施設の周辺の花壇の手入れなどを行っています。また、こうしたボランティアの活動をまとめた情報誌や活動記録を発信する情報班もありホームページも設けています。第3の活動は自主企画によるものです。「ワールドカップの集い」や関連したシンポジウムの実施のほか、施設の管理者である財団法人宮城県スポーツ振興財団との共催事業にも積極的に参加しています。また、登録し活動しているボランティアのために忘年会など交流の場を設けボランティア活動の原点のひとつである「楽しさ」を提供しています。ふたたび村松さんに活動の特徴をお聞きすると「各種大会・イベントの共催や主催をするなどボランティアが主体的に動くことで、いわゆる担当制にならない独自性の高い活動ができてきていることでしょうか」といいます。その背景には誕生の際に、ボランティアの組織としての自立と活動の主体性の確保という視点から、パソコンやプリンター、会議用のいすや机までそろえたボランティアセンターを設けたことや、ボランティアのサポートを依頼され活動した場合に主催者から支払われる謝礼金なども活動の財源としており、一部助成は受けてはいるものの多くの人々の理解と協力もあってボランティア組織として自由度の高い活動ができています。

これからということでは、「人材の育成が大事になります。活動が始まって5年が経過し登録者の減少と高齢化が進んでいるのです。その対策として「ひとつにはチョイボラという制度を作り中高校生がちょっとだけボランティア体験をするという企画を作って参加者を募集しています。次に大きなイベントが無くなりモチベーションが低下したということがありますが、その対応としてみんなで知恵を出し合い新しいことにチャレンジしたいと思います。その意味では2009年に予定されているJリーグのベガルタ仙台のホームスタジアムであるユアテックスタジアムの改修に伴い、今年1ゲーム、来年は複数のゲームが宮城スタジアムで開催されることが予定されていて、このチャンスをどうかすかが注目されるところです。

「また、来たいなと一人でも多くの人に思われるような、心こもったボランティア活動をしたい」とするキャプテンの言葉はグランディ・21ボランティアのモットーです。見学案内やイベントのサポートも含めて子供を対象とした取組みも多く、その思いが届けばこれからもずっと身近で親しみを感じてもらえる施設となるはずですよ。

FROM 横浜

日産スタジアムボランティア

ネーミングクライツによって現在「日産スタジアム」と呼ばれていますが、全国的には「横浜国際総合競技場」という名前の方が知られているのではないのでしょうか。この日本最大規模のスタジアムにボランティア制度が生まれたのは1999年にさかのぼります。その意味では「施設型ボランティア」の草分けとして、その後の「Jリーグ横浜FM」「スーパー陸上」など多くのイベントを支えてきた組織です。また、現状の登録数が約320人といいますから規模としても大きいのではないのでしょうか。

ホームページ(URLは下記参照)のボランティアのところを見ると活動はイベントの開催時にサポートする「運営ボランティア」と見学ボランティアとしてワールドカップスタジアムツアーを担当するものとに分かれているようです。また、多くのボランティア組織が一定の期限を決めて募集活動をしているのに対し、通年募集をしている点はひとつの特色です。2000年の7月から「ボランチわ」といわれるボランティア情報誌を自主発行している点も参考になります。創刊号にはその発行の目的として「会報を読まれた皆さんがみんな仲間なんだという意識を持っていただければ、会報発行の目的は達せられると思います」と書かれています。

今後の課題は「後継者の育成」、多くのボランティア組織と共通のものです。常に先行して課題に取り組む組織としてこれからも目が離せません。

日産スタジアム・ボランティアページ <http://www.nissan-stadium.jp/volunteer/>

尚、「日産スタジアムボランティア」については、別の機会に改めて特集を予定していますので楽しみに。

FROM 静岡

エコパサポーターズ

2001年9月に誕生した静岡県のECOPA(エコパ)のボランティア組織は「エコパサポーターズ」と呼ばれています。公式ホームページを見ると活動は次の4つに分かれています。また、本年5月段階で登録数は66名とのこと。

- 1) 「イベント補助」・・・イベント開催時に場内への誘導など円滑な運営の補助を行っています。<車いす対応含む>
- 2) 「大型映像操作」・・・イベントや大会などで大型映像装置やハンディカメラなどを利用し会場を盛り上げています。
- 3) 「施設見学案内」・・・毎月、イベントの無い土・日曜日にスタジアム見学ツアーを実施しています。
- 4) 「環境美化」・・・現在3団体の皆さんが公園内の花壇の花作りをしています。

ホームページのサイトマップではサポーターズの組織は、スタジアムを含む公園の運営を指定管理者として受託している「静岡県サッカー協会グループ」の公園内管理事務所である「エコパハウス」に所属しているようです。この「エコパハウス」では年間を通じて幅広い自主事業を展開しており、2010年には年間来園者100万人をめざすとしています。このあたりは地方の規模の大きいスポーツ施設の取組みとして参考になる所も多いと感じます。 エコパハウスホームページ <http://www.ecopa.jp/sfa.html>

エコパサポーターズページ [http://www.ecopa.jp/es\\_menu.html](http://www.ecopa.jp/es_menu.html)

FROM 兵庫

神戸ウイングスタジアムボランティア

多くのスタジアムが行政の施設として運営されているのに対して神戸は「神戸ウイングスタジアム株式会社」という別法人が運営しているのが最大の特徴、この会社は民間企業3社が出資しており「神戸アスリートタウン構想」の中核施設として運営することを設立目的としています。

神戸ウイングスタジアム株式会社 <http://www.obayashi.co.jp/news/newsrelease/news200110/news20011001.html>

この結果、施設の運営には民間の経営ノウハウが積極的に取り入れられており、宿泊も可能な研修施設やスポーツのイベントがレストランで食事をしながら観戦できる企画なども提供されています。

その中でボランティア組織については施設会社・ヴィッセル神戸などで事務局を構成し、スタジアムの自主イベントの運営補助やスタジアム見学会の運営サポートで活動しています。

神戸ウイングスタジアムボランティアページ <http://www.wingstadium.jp/borasyosai.html>

SV2004  
活動報告

泉ヶ岳アウトドア  
フェスティバル・ボランティア  
活動報告  
2008年5月16日・17日・18日



新緑のアウトドア・イベント

天候さえよければこの時期アウトドアは本当に気分がいいものです。5月17日の土曜日は毎年恒例となっている「泉ヶ岳アウトドア・フェスティバル」のボランティアに参加してきました。ちなみに「泉ヶ岳」という山は仙台市の北西部にある山で、市内から30分程度でいけるため四季を通じて、登山・パラグライダー・スキー・キャンプなどで市民に親しまれているところで、最近中腹にはおしゃれな飲食店なども増えています。

さて、このイベントは複数の内容から構成されていて、「新緑トレッキング」や、「山岳マラソン」、「クロスカントリー」をはじめ子供向けの企画もありました。中心となっているのはマウンテンバイクのイベントで、全国を転戦するMTBジャパンシリーズの「1クロスカントリー」が開催され、日本全国からトップクラスの選手が参加し、ハードなレースを見ることが出来ます。特に今年はオリンピックイヤーということで代表クラスの選手も気合が入っており、レースも盛り上がるのだと聞きました。最もこのイベントは18日の日曜日の開催であり、私がサポートした土曜日のメインイベントは同じマウンテンバイクによる「3時間エンデューロ」というものでした。これは、個人やチームで一周約6.8Kmの起伏の激しいコースをひたすら走るというもので、丁度スタート直後から雨が降ったり止んだり安定せず、転倒も多かったようです。

このイベントでは3日間にわたりたくさんのボランティアがサポートしています、選手の招集やタイムを測定するタグの回収、コースの立哨、給水、表彰からコースの設営補助から撤去までその活動はいろいろです。大変なのは集合が6時15分と早いことと山特有の安定しない天候で、数年前にはすごい土砂降りの中で活動したこともありました。それでも、レースを終えた選手たちの笑顔の素晴らしさを感じ、新緑の中で活動することでおいしい空気を味わうことができます。白馬など全国的にはもっと規模の大きい大会もありボランティアが活動しているとのこと、いつかかけてみたいものです。

泉ヶ岳アウトドアフェスティバルホームページ <http://www.spf-sendai.jp/event/mtb.html>



2008年5月17日

泉ヶ岳アウトドア  
フェスティバル



# SV2004について

## 【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

## 役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います  
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします  
思いをともにする人々とのネットワークを構築します  
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます  
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします  
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

## 活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど  
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数  
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など  
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など  
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催  
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加する正会員とボランティア活動のみを行う準会員  
・活動趣旨に賛同するサポート会員があります

## 【入会方法】

正会員 … 年会費3,000円 ・ 学生は1,500円 (年度は4月～翌年3月となります)  
準会員 … 年会費500円 サポート会員 … 年会費2,000円  
お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)  
または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)  
申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004  
レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)  
メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469  
申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004>

多くのチームでボランティアを募集中です

BC・リーグ・プロ野球独立リーグボランティア < 各チームの公式ホームページより >

【群馬ダイヤモンドペガサス】 ボランティアページ [http://d-pegasus.com/volunteer\\_staff.cgi](http://d-pegasus.com/volunteer_staff.cgi)

【新潟アルビレックスBC】 ボランティアページ <http://www.niigata-albirex-bc.jp/index.php?e=95>

【信濃グランセローズ】 ボランティアページ [http://www.grandserows.co.jp/modules/volunteer/index.php?content\\_id=1](http://www.grandserows.co.jp/modules/volunteer/index.php?content_id=1)

【富山サンダーバース】 サポートスタッフページ <http://www.t-thunderbirds.jp/application/staff.html>

【石川ミリオンスターズ】 ボランティアページ [http://www.m-stars.jp/volu\\_boshu.html](http://www.m-stars.jp/volu_boshu.html)

【福井ミラクルエレファント】 サポートスタッフページ <http://elephants.com/topics/332>

四国・九州アイランドリーグボランティア < 各チームの公式ホームページより >

【愛媛マンダリンパイレーツ】 ボランティアページ <http://www.m-pirates.jp/complete/news/001127.html>

【香川オリブガイナース】 ボランティアページ <http://www.oliveguyners.jp/volunteer/>

【徳島インディゴソックス】 ボランティアページ [http://www.indigosocks.jp/asp/nwsitem.asp?nw\\_id=124](http://www.indigosocks.jp/asp/nwsitem.asp?nw_id=124)

【高知ファイティングドッグス】 ボランティアページ <http://www.fighting-dogs.jp/volunteer.htm>

【福岡レッドワblers】 ボランティアページ <http://www.redwarblers.com/volunteer.html>

【長崎セインツ】 クラブセインツ・クルースタッフページ <http://www.dreamerproject.com/club/index.html>

(注意) 内容は08年5月15日段階のもので、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 : 敬称略 >

岩瀬 裕子 金子 法泰 村松 淳司 田中 育郎 渡辺 英樹 鈴木 達也 浅見 圭一  
**スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)  
 を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場として  
 SVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)**

## 情報紹介

「約10%のために」できること

.....Jリーグ 東京ヴェルディの取組み

その記事の書き出しはこんな風に始まります。「補聴器ユーザーが歓声渦巻くスタジアムに身を置くと、どんな状態になるか想像したことは無かった」、知人から紹介された5月21日付日経新聞に「フットボールの熱源」という小さなコラムがありました。さきほどの書き出しの続きは「ザーツという雑音ばかり」ということだそうです。スポーツの観戦が快適なものとなること、それはイベントの運営をする人々共通の願いです。しかし、本当に観客の視点で課題をみつけ解決しているか、となるとまだ十分ではないと感じることもあります。実は補聴器を使えば聞こえが快適となる人々のため近年建てられたほとんどのスタジアムには「磁気ループ席」というものがあり、そこに切り替えスイッチでアナウンスだけを送る設備を整えればいいのだそうです。実際に味の素スタジアムで東京ヴェルディがこの取組みを始めており、遠方からわざわざこの施設があるということで観客が来るケースもあるとのこと。何より驚くべきは補聴器を使うことでより快適に聞き取れるであろう潜在的なユーザーが全人口の10%にのぼることでした。

どうすればより多くのお客様に来てもらえるか、それを考えるヒントがそこにあります。どんな人が、どんな理由で来ないのか。どうすれば何度も来たいと思ってもらえるのか。いろいろな人の視点で考えたいものです。ちなみに、東京ヴェルディの取組みはクラブに対するある観客からの問い合わせから実現したとのこと。

### 編集後記

6月、一年という単位でいえば折り返しの時期、やろうとしたことが出来ているのか、途中であれば目標の時までにできるのか。見直すことが大切です。日本では丁度梅雨、たまの休みに好きな音楽でも聞きながら確認してみたいかでしょうか。もちろん、このSVニュースも、改めてお読みいただければ幸いです。また、今年はオリンピックイヤー、北京に出かけられる方も多いのではないのでしょうか。もし行かれる場合は、ボランティアの活動についてもご覧頂き感想などをぜひお知らせください。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php>

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。

情報提供先 [izumita@dm.mbn.or.jp](mailto:izumita@dm.mbn.or.jp)